

# 水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JA東神楽

堤 義彰



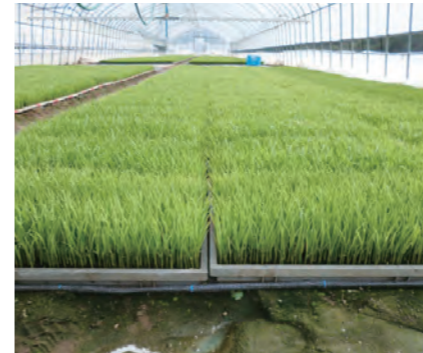
試験区①(4月27日)



試験区②(4月27日)



試験区③(4月27日)



試験区④(5月13日)



試験区⑤(5月15日)



試験区⑥(5月15日)

### 試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

### 試験作物 及び品種

水稲(ななつぼし)

### 試験資材 及び数量(規格)

クミアイこめパワーマット(寒冷地用) (播種量:380ml/箱)

### 慣行資材

培土 (播種量:190ml/箱)

### 栽培方法

播種日	4月27日・5月15日	収穫日	9月下旬
【栽植密度】	慣行区	畝幅:33cm	株間:12cm

### 資材使用期間

4月27日~5月15日

### 試験区面積

10a

### 試験結果

#### (1)作業性について(慣行品との比較)

- ・播種時の慣行の重量は約4.7kgに対し、試験区は3.5kgであり軽量のため作業性は良かった。
- ・播種作業と苗運びにかかる労働時間が短縮でき、低コスト・省力化を図れた。

#### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ・5/8に追肥を行った結果、試験区の草勢、根張りが非常に良好となり、健苗となった。
- ・定植時のマットの引き剥がし作業では、予想以上に試験区の根張りが良く作業性は良くなかった。これは、追肥の影響が大きいと考えられる。

#### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 稚苗でのロックウール栽培は、軽量であり時間も短縮できるため省力化を図れる。

#### (4)促成・抑制効果について

マットの肥料効果が持続期間内であるものの追肥した結果、健苗となったが根張りが良すぎて、後の作業に影響を及ぼした。持続期間内においては、追肥は不要であった。

### モニター感想

播種時、マットが軽量のため作業性は良かった。播種時の忙しい中、作業省力化を図れることは助かるが、追肥をした結果、マットを引き剥がす作業は大変だった。追肥には注意したい。

#### JA担当者の感想(資材燃料課 平澤 氏)

作業省力化を図れるため、このような資材は良いと思うがマット使用者は少数であり、普及にはポット使用者の機械等の初期コストが大きいため、難しいと思う。春先は高温となっていることから、稚苗栽培は可能と見込まれ今後の普及に期待したい。

### 今後の使用について

改良して欲しい。播種機の振動によりマット上で種子が飛び跳ねる現象があった。種子の量が多かった事も要因とは思われるが、播種機によっては発生し得る現象なので可能であれば改善して欲しい。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 クリーンシート

4 機能的マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他